

明治大学 社会科学研究所 シンポジウム

「新常态という社会のあり方：With, after and before corona」（2020年11月28日）

調査報告

## 「新型コロナウイルスという日常：変わったこと、変わらないこと」

報告者：折戸洋子（愛媛大学社会共創学部）

愛媛大学 社会共創学部 折戸ゼミナール 8 期生

（石丸聡一郎、小野新、岸諄、角直輝、西岡太一、山口英里）

明治大学 商学部 村田ゼミナール 24 期生

（浅井和俊、大原千晶、加藤紀香、川端美裕、木村元紀、草野孝昭、黒沼実生、小町琢真、佐々木豪、  
嶋田有羽、庄司遼太郎、鶴田尚、松田菜々、鳴尾空海、宝代悠真、増山彩英子、向井麻希）

### Introduction

2020年、新型コロナウイルスの流行によって、私たちの日常生活や経済活動は多かれ少なかれ、何らかの変化を迫られることとなった。日本で新型コロナウイルスの発生や流行が報じられた初期の頃とその後では、新型コロナウイルスの特質やその対策、予防法、治療薬に関する報道内容も大きく異なり、マスクの着用や除菌、三密対策など日常生活の中でも様々な変化が見られ、国内外における経済活動も大きな影響を受けることとなった。

本調査報告では、新型コロナウイルスという感染症の流行によって、2020年1月から5月という、緊急事態宣言を含む時期において、社会全体において何が起き、どのような変化が生じたのかについて、一般紙や地方紙、通信社などの新聞記事を主に調査することによって確認し、その振り返りを行う。また、このような変化が生じる中で、個人の日常生活や行動、人間関係、教育活動、労働環境はどのように変化したのか、あるいはしなかったのかについて、2020年8月から10月にかけて実施したアンケート調査の結果に基づいて報告する。

### 1. 新型コロナウイルス関係の報道、情報発信動向

カテゴリ：新型コロナウイルスの特質、対策、デマ、生活、経済での変化

対象：一般紙、地方紙（一部）、通信社、デマについては SNS など

対象記事：2020年1月～5月

調査時期：2020年5月

### 2. アンケート調査結果からみる変化

調査テーマ：生活習慣、健康・情報行動、人間関係、学び方、働き方

調査時期：2020年8月（健康・情報行動）、9-10月（生活習慣、人間関係、学び方、働き方）

調査結果のダイジェストを報告

### Acknowledgement

本調査にご協力くださったすべての皆さまに心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。